

平成23年(2011年)度版

ごみゼロレポート

～みんなでめざそう “ごみゼロ社会”～



ごみゼロ社会実現プラン	p.1
三重県のごみの現状	p.3
平成22年(2010年)度の取組	p.5
(ごみゼロ社会実現プラン推進モデル事業)	
ごみゼロ社会実現プラン推進モデル事業の効果検証	p.13
平成22年(2010年)度の取組	p.17
(県として主に取り組んだこと)	
ゼロ吉くんレポート	p.23

平成24年(2012年) 月

三 重 県

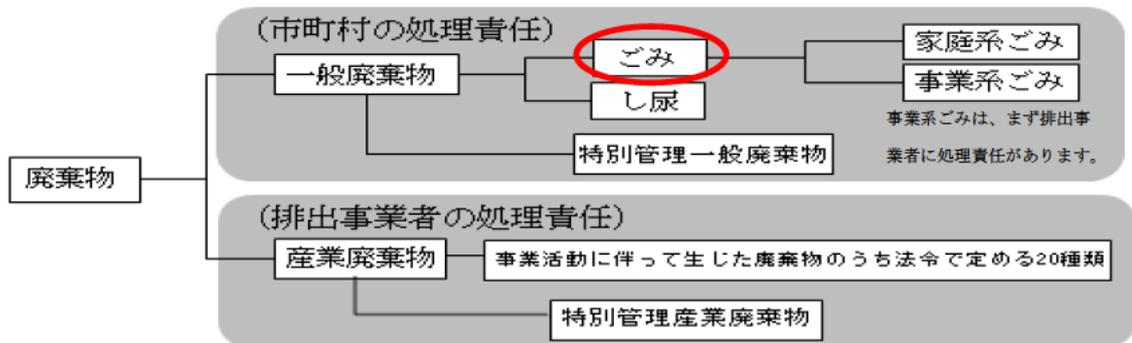
■「ごみゼロ社会実現プラン」とは？

持続可能な資源循環型社会の構築という大きな目標に向けて、住民、事業者、行政など多様な主体が共有すべき取組の指針であり、長期的な展望のもとに参画・協働していくためのプランです。県民のみなさんの参画のもと2005年（平成17年）3月に策定し、2011年（平成23年）3月、数値目標をはじめ内容の見直しを行いました。

●「ごみゼロ社会」とは？

「ごみを出さない生活様式」や「ごみが出にくい事業活動」が定着し、ごみの発生・排出が極力抑制され、排出された不用物は最大限資源として有効利用される社会” のことです。

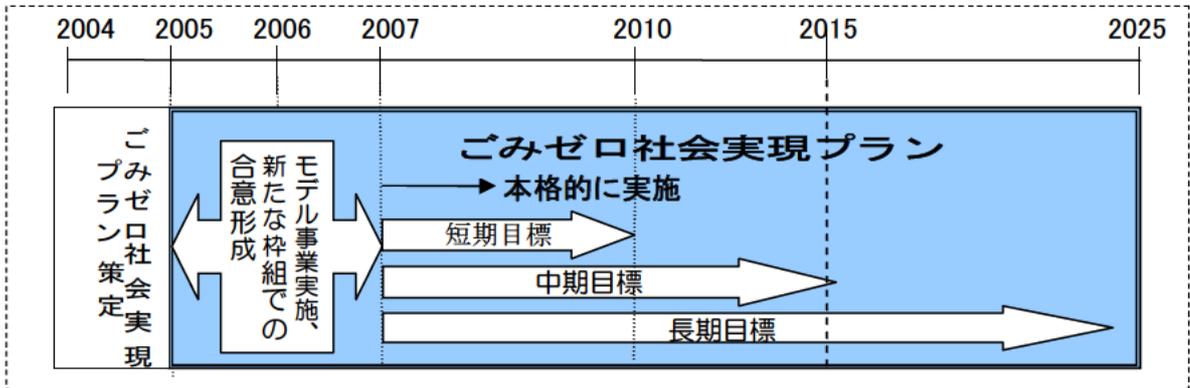
●ごみとは？



●推進体制のイメージ

住民や事業者、行政、民間団体等がそれぞれの役割を認識したうえで、自主的にごみの減量化・再資源化に向けた取組を進めます。また、各主体の連携協働を促進します。

● **ごみゼロ社会実現プランの目標設定**



● **短期・中期の目標設定**

(1) **ごみの減量化**

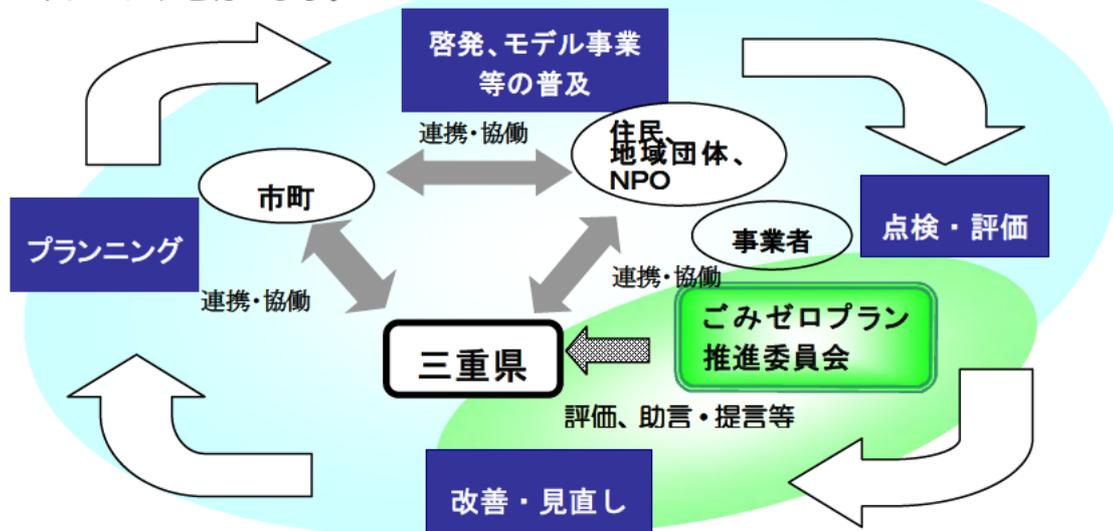
区分	指標名	実績	数値目標	
		2009 年度	中期(2015 年度)	目標(2025 年度)
①発生・排出抑制に関する目標	ごみ排出量削減率 (対 2002 年度実績)	家庭系ごみ 10.9% 事業系ごみ 29.6%	家庭系ごみ 20% 事業系ごみ 35%	家庭系ごみ 30% 事業系ごみ 45%
②資源の有効利用に関する目標	資源としての再利用率	13.2%	22%	50%
③ごみの適正処分に 関する目標	ごみの最終処分量	65,032トン (対 2002 年度比 約 57%減)	55,000トン (対 2002 年度比 約 63%減)	0トン

(2) **多様な主体の参画・協働**

指標名(2004 年度実績値)	実績	数値目標	
	2010 年度	中期(2015 年度)	目標(2025 年度)
④ものを大切に長く使おうとする県民の率(58.2%)	59.4%	90%	100%
⑤環境に配慮した消費行動をとる県民の率(39.4%)	41.3%	90%	100%
⑥食べ物を粗末にしないよう心がけている県民の率(38.5%)	47.3%	90%	100%
⑦ごみゼロ社会実現プランの認知率(-)	36.8%	100%	100%

● **プラン推進のマネジメント**

県民、事業者、NPO等団体、学識経験者、行政で構成される「ごみゼロプラン推進委員会」を設置し、プラン推進の取組を検証・評価し公表するなど、PDCAサイクルに基づくマネジメントを行います。

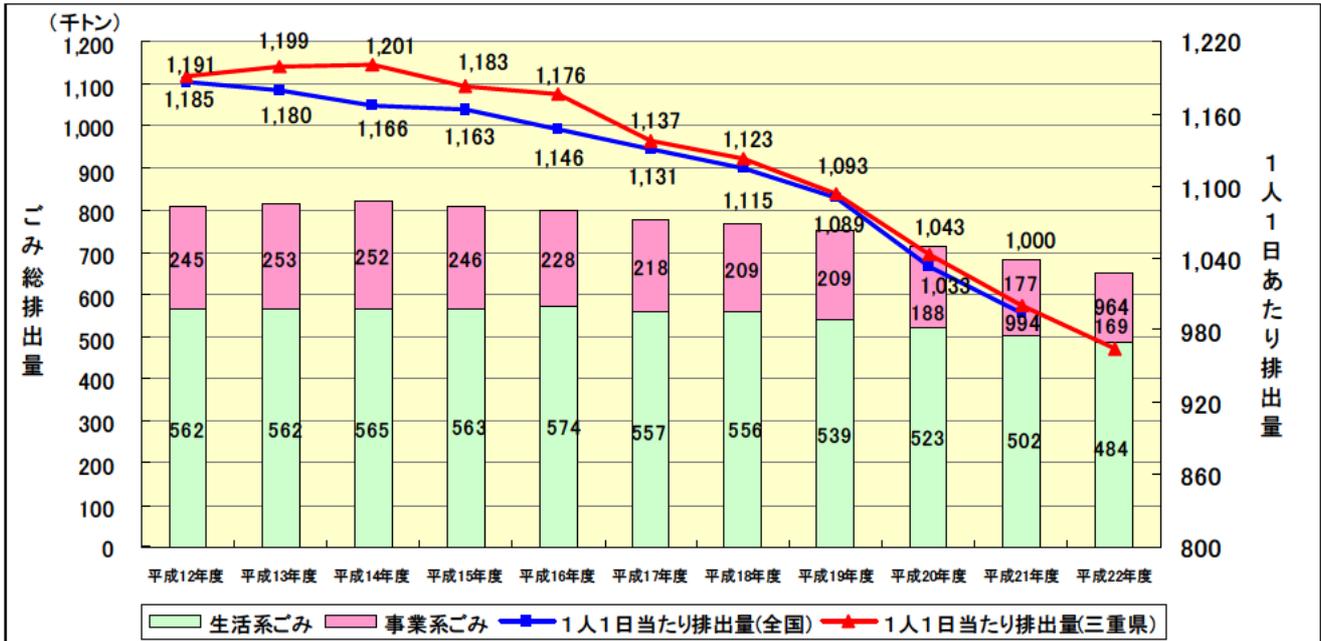


■三重県のごみの現状

●ごみの排出量

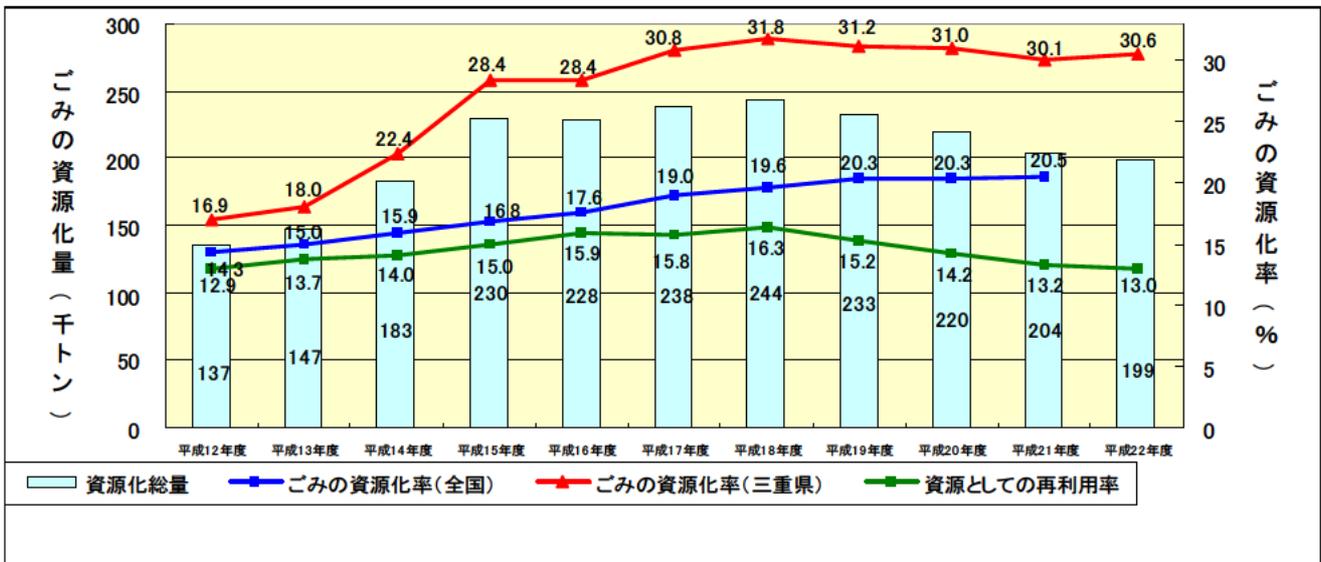
平成22年（2010年）度の速報値では、県内におけるごみ総排出量は、前年度比約4%の減少となっています。そのうち、生活系ごみの排出量は約4%、事業系ごみの排出量は約5%と、いずれも前年度に比べて減少しています。

また、1人1日当たりのごみ排出量でも、22年度速報値は964gとなり、前年度に比べて、約4%減少しています。しかし、21年度実績では全国よりも多い状況にあります。



●ごみの資源化率

平成22年（2010年）度の速報値では、県内におけるごみの資源化率は約31%で、全国でトップクラスとなっています。



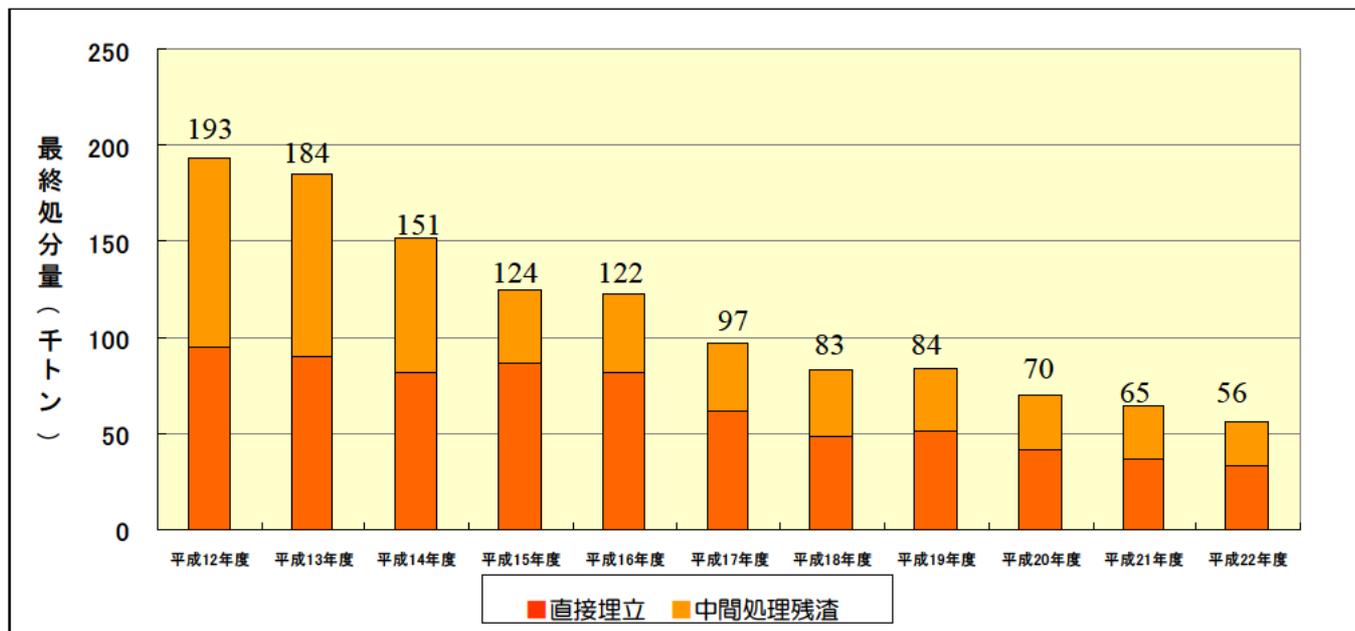
※1 プランの数値目標である「資源としての再利用率」には再使用や再生利用をより重視する観点から、資源化総量 199,636 t の内、このグラフの「資源化率」には含んでいる①「ごみ固形燃料(RDF)発電施設に供給するためにRDF化した量 49,357 t (25%)」、②「焼却施設で生じた焼却灰を熔融化施設でスラグ化した量 37,468 t (19%)」③「集団回収量 24,770 t (12%)」は含めていません。なお、「資源化率」は国が定義するリサイクル率のことを言い、次の数式で算出します。

$$\text{資源化率}(\%) = (\text{資源化総量}(\text{直接資源化量} + \text{中間処理後再生利用量} + \text{集団回収量}) / (\text{ごみの総処理量} + \text{集団回収量})) \times 100$$

※2 この数値については、行政が回収したものを対象としています。

●最終処分量

平成22年（2010年）度の速報値では、県内における最終処分量は約5万6千トンで、前年度に比べ約13%減少しました。最終処分量は、10年前と比べると1/3以下になっています。

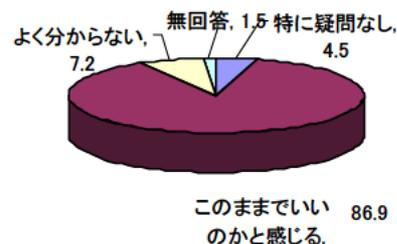


●県民の意識と行動

県民のごみに関する意識をみると、今の使い捨て社会に対して大多数の人が疑問を感じながらも、実際に環境に配慮した行動をとる人の割合はまだ低く、意識と行動とが必ずしも結びついていない実態があります。

◆使い捨て社会に対する疑問

平成22年度の「ごみゼロ社会」をめざす県民アンケートでは、今日の使い捨て社会に対して「このままでいいのかと疑問を感じる」人の割合が86.9%と最も高く、「特に疑問は感じていない」人は4.5%でした。



◆プラン数値目標（多様な主体の参画・協働）についての県民意識

	H16	H19	H22
ものを大切に長く使おうとする県民の率	58.2 %	58.3 %	59.4 %
環境に配慮した消費行動をとる県民の率	39.4 %	40.2 %	41.3 %
食べ物を粗末にしないよう心がけている県民の率	38.5 %	40.6 %	47.3 %
ごみゼロ社会実現プランの認知率	—	45.6 %	36.8 %

「ごみゼロ社会実現プラン」の数値目標についての県民の意識は、「ものを大切に長く使おうとする県民の率」「環境に配慮した消費行動をとる県民の率」「食べ物を粗末にしないよう心がけている県民の率」の3つの項目は、平成16年度・19年度に比べて増加していますが、「ごみゼロ社会実現プランの認知率」は減少しています。

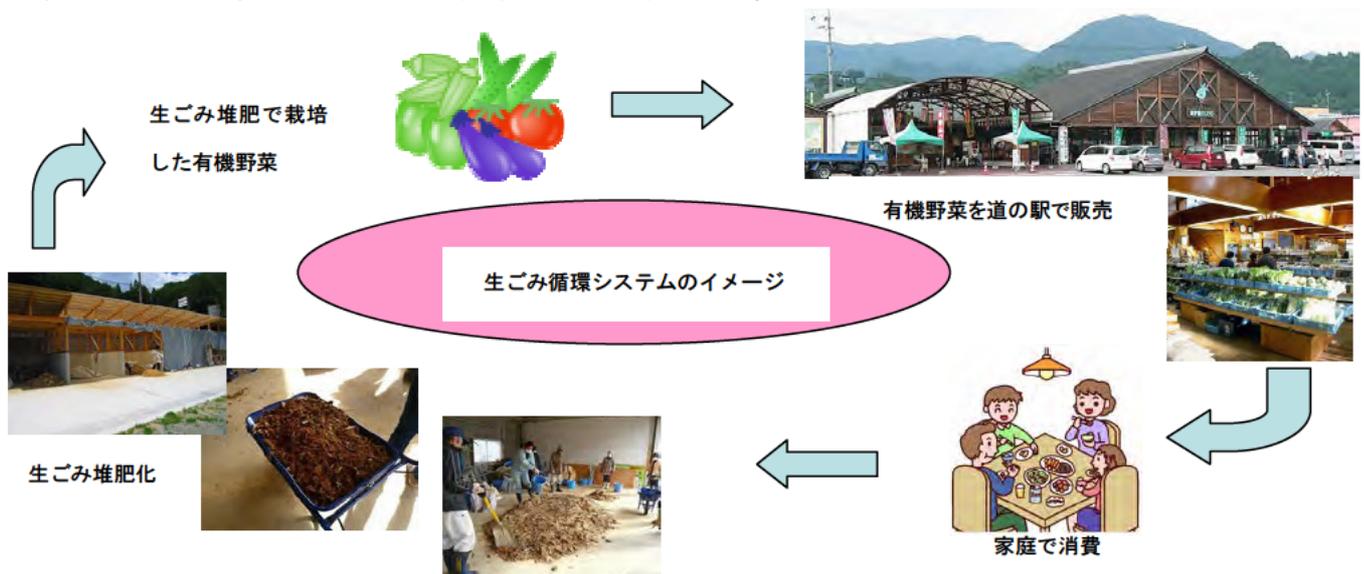
■平成22年（2010年）度の取組 （ごみゼロ社会実現プラン推進モデル事業）

「ごみゼロ社会実現プラン」のごみ減量化取組をより効果的に、県全体での展開につなげるために、市町が地域住民・事業者・団体等と協働して行う、他の市町・地域の参考となる実験的・先駆的なモデル事業3件に対して、費用を補助するなどの支援を行いました。

■大台町「地域密着型生ごみ・資源物の回収、資源化システム構築検討事業」

●事業の目的と概要

- ・大台町では、これまであまり利用が進んでいなかった生ごみの有効利用を進めるため、地域ごとに生ごみ堆肥に取り組むグループを育成し、できた堆肥で野菜等を栽培し、それを消費する、生ごみを資源として循環させるシステム構築に取り組みました。



- ・また、広報「おおだい」に「リサイクル くる・くるコーナー」を設け、「譲ってください（使用可能なもの）」「譲ります」に物品を掲載し、粗大ごみ集積場を拠点に物品の有効利用をはかりました。あわせて、修理ができる人材も募集し、「リサイクルクラブ」を設立し、修理による再利用も進めています。

リサイクル
くる・くるコーナー

譲ってください（使用可能なもの）

・家を壊した時に出る赤土	・ほうろく
・はかり（30kg用）	・木うす
・空き缶つぶし器	・木の皮はぎ
・大人用自転車	・石うす

譲ります

・マッサージ器・ソファベッド

役場生活環境課 ☎82-3787

広報「おおだい」

●事業の成果

- ・新たに生ごみ堆肥化に取り組むグループが4つ誕生し、ほぼ町の全域となる7地域で約170名の住民が生ごみ堆肥化に取り組むようになりました。
- ・堆肥化作業を通じ、参加者相互のコミュニケーションが綿密になるとともに、できた堆肥で野菜等を栽培し、自宅での消費や販売することで、生ごみの資源循環につながっています。
- ・参加者に対するアンケートにおいて、生ごみを捨てていたことへの反省やリサイクルできるものは分別してリサイクルすべき等の意見があり、ごみに対する住民の意識の変化がみられます。



堆肥化施設「大台町コンポストセンター」

- ・生ごみの堆肥化を進める中心的な役割を果たす人材の育成を図るため、コンポスト学校へ意欲的な町民を派遣し、「生ごみマイスター」として登録しています。生ごみマイスターを中心に堆肥化に取り組む町民が増えています。

今後の取組や課題

- ・生ごみ堆肥の品質の良さをPRすることで、新たに生ごみ堆肥化に取り組む世帯の拡大に取り組みます。
- ・生ごみ堆肥で育てた野菜などが道の駅等で販売できるよう、関係部署・事業者が生ごみ堆肥の有効性をPRしていく必要があります。

関係者の声

切り返しに参加した方から



切り返し

- ・生ごみ堆肥に取り組む前に予想していたほど、作業は煩わしくなかった。
- ・ごみの処理経費が軽減されることと、生ごみが資源として活用できることが良い。
- ・「コンポスト」「通常のごみ処理」「堆肥化」といろいろなごみ処理手法を住民が選択できることが、継続していくために必要。
- ・仲間と話し合いながら、堆肥を作っていることが楽しい。
- ・最終的にできあがった堆肥が欲しくて、生ごみの堆肥化に取り組んでいる。安全で安心な野菜づくりを進めたい。

などなど参加している皆さんの楽しそうな笑顔が印象的でした。

生ごみマイスターの皆さんから

- ・中西さん

平成18年12月に松阪で堆肥化の講演を聞いて、自治会の婦人部を中心に自主的に堆肥化に取り組みだした。

平成22年度から町の支援があり他の地域でも堆肥化グループが拡大しているのは心強い。



生ごみマイスターの皆さん



中西さん

安全な食品を食べることの必要性を訴えかけながら、参加者の拡大を図っているのですが、急速に参加者の拡大は

できないが、地区の文化祭でPRし、堆肥化の手順を図解したり、できた堆肥を活用した野菜を販売したりすることで、地道に参加者の拡大を図っています。

・濱地さん

現状、私のグループでは、ごみ出しは男性の仕事となっていることが多い。ごみの減量化は、ごみ出しをする男性も関係するので関心が高いのではないかと。住民活動として持続させるには、口うるさく、あまり細々と注文を出さないことが大事です。

高齢者は、分別も難しく二次処理までできないので、一般家庭と同じやり方は難しい。地域でのフォローが必要。



濱地さん

・稲垣さん、岸さん、浅井さん、田岡さん

現在、マイスターめざし、堆肥化技術を習得するために奮闘中！



岸さん



稲垣さん

リサイクルクラブで活動している方から

・会長の中村さん

月1回（旧大台・宮川隔月）の粗大ごみ収集の日に合わせて、譲りたい物と欲しい物のマッチングを行っています。必要があれば、修理を行いリサイクルしています。平成22年度から活動開始。現在会員は10名。



粗大ごみ集積場



会長の中村さん

使える物を利活用できることに意義を見出している人もいれば、自分の技術の活用に生き甲斐を感じている人もいます。

このような活動は、社会的な意義もあり、皆さんに喜んでいただき、やりがいがあります。

今後、年に数回、リサイクル関係のイベントを開催していきたいと考えています。



大和谷

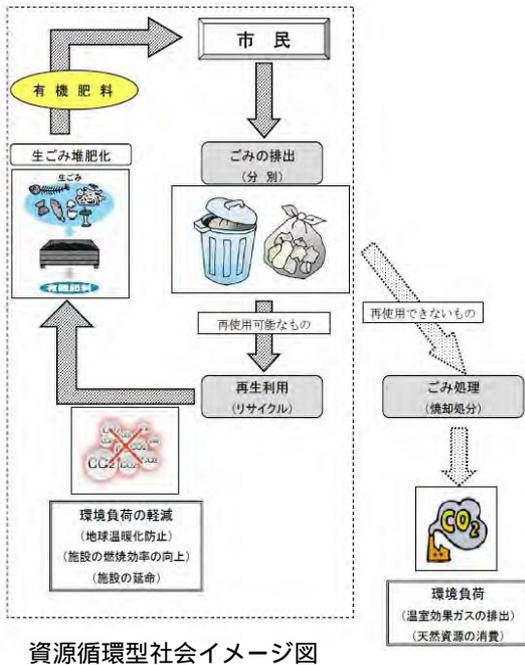
大台町 生活環境課から

町としては「生ごみマイスター」と連携して、堆肥化の取組を全域に広げていきたいと考えています。

完熟堆肥を使用することによって、良い土ができ、良い水・空気が作られ、ひいては環境保全にもつながっていくと確信しています。

名張市「生ごみ・草木類の回収及び資源化システムの実証実験事業」

事業の目的と概要



資源循環型社会イメージ図

名張市では、「ごみゼロ社会を目指すアクションプログラム（第三次）」に基づき、平成22年度は、生ごみ及び草木類の資源化における課題の検証や対応策等を検討するために「生ごみ資源化試行事業」及び「草木類資源化事業」を行いました。

（生ごみ資源化試行事業）

・市内23地区（1,963世帯）をモデル地区に選定し、その住民は、週1回の専用収集日に、生分解性プラスチック製の生ごみ専用袋に生ごみだけを入れて、各ごみステーションに排出します。なお、試行にあたっては、フタ付き密閉型水切りバケツを配布するなど、生ごみ資源化を進める資材の使い勝手も検討しました。その生ごみを民間事業者の処理施設に運び、堆肥化に向けての課題の抽出と対応策の検討を行いました。

（草木類資源化事業）

・せん定枝用小型破砕機を購入し、平成22年8月から市民向けに3台の貸出を開始しました。



せん定枝用小型破砕機



生分解性プラスチック製
生ごみ専用袋



フタ付き密閉型水切りバケツ

事業の成果

・平成22年10月1日～12月23日までの間、応募のあった23地区（1,963世帯）で生ごみ資源化の試行したところ、収集した生ごみは、18,580kg、収集袋数は、12,689袋にのびりました。



生ごみ収集

- ・「草木類資源化事業」について、せん定枝用小型破碎機の貸出回数が111回、45L袋換算での破砕量は336袋となり、家庭における草木類の資源化が進みました。

今後の取組や課題

- ・約3か月間の「生ごみ資源化試行事業」では、燃やすごみの収集日を週2回から週1回と減らし、そのうちの1回を生ごみ専用収集日としました。試行を通じて大きな混乱はなかったのですが、燃やすごみの収集日を週1回に減らしたことから、おむつやペットシートなど長期間家庭で保管することが困難な燃やすごみへの対応が課題として明らかになりました。
- ・試行事業で使用した「生分解性プラスチック製袋」は、自然劣化が生じ長期の保管が難しいことや強度に問題があります。また、ポリエチレン製の指定袋とはコスト面で4倍の差があることから、本格実施に向けて検討していく必要があります。
- ・平成23年度には、アンケート結果を踏まえ、再度、夏場に生ごみ資源収集を試行しています。今回は、におい対策としてポリバケツをごみステーションへ設置しました。ごみ専用袋については、ポリエチレン製での事業が成立するかどうか検証を行いました。
- ・「草木類資源化事業」では、せん定枝用小型破碎機の貸出事業が好評だったことから、平成23年度より小型破碎機を購入するときには、補助金を拠出しています。



夏場の試行（におい対策）



二次破碎機付せん定枝粉碎処理車

また、二次破碎機付せん定枝粉碎処理車を購入し、市内、市所管部署等から発生する草木類を対象としての資源化及び小中学校の環境学習等での活用を行っています。



環境学習

関係者の声

（近畿環境サービス（株））



堆肥化施設の内部

これまで、主に下水道汚泥の堆肥化を中心に行ってきました。YM菌の効果で100以上の高温になるため、害虫の発生もなく副資材を使用しないことで、減容率が1%未満と高いことが特徴です。

企業として、市の事業に協力することで社会貢献活動の展開をはかりたいとのことから、今回の試行事業へ協力しています。

本格実施についても、試行中の課題を整理して協力していきたいと考えています。生成した堆肥は、近隣の農家や社員に提供し、2～3割の増収になったと喜ばれています。

また、自社で持つ実験農場でも使用し、試験的に農作物を育てています。

減容率が高いため、生成される堆肥の量が少ないことが、これからの課題です。



敷地内の実験農場

YM菌とは、高温好気性の特殊なバクテリアで特許菌です。

(株)エム・シー・エス

今回の市の試行事業とは関係なく、8年程前に数年間、独自に近隣住民(300世帯)と生ごみの堆肥化に取り組んでいました。

生ごみの資源化を企業の循環型社会への貢献ととらえ、コンポストマイスター資格取得のため、従業員を研修に派遣、就業時間後に勉強会を開催するなど、事業所あげて生ごみの資源化に取り組んでいます。

平成22年度と23年度の市の試行事業に参加しています。市の明確な方針が決定されたら、2回の試行で明らかになった課題を整理し、本格実施にもぜひ協力したいです。



堆肥化施設の内部

赤坂区区長 井川敏雄さん



赤坂区区長 井川敏雄さん

平成19年度に「名張市ごみゼロ・リサイクル推進委員会」に区長会代表者として参加し「アクションプログラム」の策定に携りました。

生ごみを焼却処分することは、炉で水を燃やしているようなもので効率も悪い。多くの名張市民は、市の行政手腕に期待しており、特に環境・福祉面の評価も高い。市の財政状況が厳しいことも理解しており、住民もできる範囲で協力しようという思いがあります。

今回の試行事業で区長として特に苦勞を感じたことはありません。最初は、反対意見の方もみえましたが、丁寧に説明することで理解されたと思います。ごみ減量化については、若い世代の方が理解があります。今回の試行事業に参加してみて、住民の間に助け合いの気持ちが広まり、地域の一体感が強くなった気がします。

(名張市役所 環境対策室 名和健治室長、川内彬宏さん)

昨年度の試行事業によるアンケート結果によって明らかになった課題の解決を検証するため、今年度(平成23年度)は「夏季生ごみ資源化試行事業」を行っています。

この2回の試行を踏まえ、今後は市内全域での本格実施に向けた取組を市民・事業者と共に丁寧に行いたいと考えています。



名張市市役所 名和室長



名張市市役所 川内さん

伊勢市「事業系ごみの減量化・資源化に関する検討事業」

事業の目的と概要

伊勢市では、これまで、燃えるごみをできる限り少なくするため、ごみの減量化や資源化に取り組んできましたが、生ごみの有効利活用による減量化・資源化が課題として残っています。

そこで、平成 21 年度には、家庭から排出される燃えるごみ及び生ごみの組成について、状況を把握しました。

平成 22 年度は、燃えるごみ全体（家庭系及び事業系）の減量・資源化を進めるため、事業者から排出される燃えるごみの組成調査及び事業者に対する燃えるごみの減量・資源化に対する意識調査(アンケート)を実施しました。

事業の成果

- ・伊勢市内の飲食業、旅館・ホテル業、総合食品小売業者 10 事業者から排出される燃えるごみについて組成等分析調査を行ったところ、厨芥類が重量ベースで一番多く、未利用食品を含めると半分近くを占めていることがわかりました。
- ・アンケート結果では、ごみの減量化や資源化に取り組んでいる事業者が 4 割弱、生ごみの有効活用に「賛成」と回答したのは 6 割を超えていました。
- ・有効活用に際して、生ごみの分別排出が「可能」と回答したのは 6 割で、その理由としては、「生ごみの有効利用に協力したい」や「環境への負荷が軽減されることを期待できる」などの意見が多く、生ごみの減量や資源化に対して一定の理解がされていることがうかがえました。



ごみ組成等分析調査

今後の取組や課題

- ・今回の調査で事業系ごみの組成と事業者の意識等が把握できたので、市全体としてのごみの減量、特に生ごみの減量と資源化について検討を進めたいと考えています。
- ・生ごみの有効活用について、これまでの商工会議所と共同研究を進めてきたメタン発酵などの先進事例を参考にしながら、さらに調査・研究を進めていきます。

関係者の声

ユニー(株)ピアゴ上地店 櫻井雅和 業務副店長

ユニーでは、かねてからエコ・ファースト企業として食品残渣の資源化を積極的に進めています。当店でも、生ごみを堆肥化することで資源化し、その堆肥を活用し、野菜などを生産して、その野菜をお店で販売する、ループを構成したいと考えていました。このような企業風土のあるところに伊勢市からの依頼があったので、当方としては社会貢献のことも考え、迷わず参画しました。



櫻井業務副店長

当方では、生ごみを堆肥化するところまでは進んでいますが、その堆肥を使った生産物は、まだこの店舗には入ってきていないので、すでに実践している他店舗のようにループに取り組めるようにし、また、食料品だけでなく、衣料や住用品に関連するごみの減量も進めていきたいと考えています。

地域のごみ減量化のトップランナーになることをめざしていますが、地域の方にあまり取組が知られていないようなので、PRしていきたいです。



館内の直営店、テナントごとにごみを分別ステーション化、館内全てのごみを集めてくる場所での分別。分別に迷っても判断できるように、可能なかぎり写真付きで表示している。



ごみの排出の際には、計量機により、ごみの種類ごとに計量し、計量が終了したものを、ごみの種類ごとに集積している。従業員のごみ減量に対する意識啓発に効果が見られる。

伊勢市環境生活部環境課 坂本進副参事、松村綾子さん



(左)坂本副参事 (右)松村さん

これまで事業者の方に対してごみに関する啓発をあまりできていなかったのですが、今回協力いただいた事業者の方には、個々のごみの組成と市のごみ状況を知っていただけてよかったと思います。調査結果及び減量化・資源化の依頼文書をお渡ししたのですが、本来は、個々の結果を踏まえ、減量化・資源化に関する意見交換ができると、よりよかったと思います。

一方、調査対象事業者の方のうち、ピアゴさんのように、今回の調査をきっかけに厨芥類の堆肥化に取り組んでいただいたことは、とてもうれしく思っております。

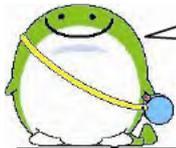
今後は、今回の調査結果を元に、さらなる減量化・資源化に取り組んでいきたいと思っております。

ごみゼロ社会実現プラン推進モデル事業の効果検証

平成17年度から22年度までの間、ごみゼロ社会実現プランに掲げる具体的施策をより実効性の高いものとするにより、プラン推進に関する取組の県全域での展開を図るため、多様な主体の連携・協働によるごみ減量化等の取組に対する補助を行ってきました。以下に、平成21年度までの事業概要と成果をプランの基本取組に基づき、まとめました。



基本取組5 - 1 生ごみの堆肥化・飼料化				
事業名	市町	年度	概要	効果(成果)
生ごみ堆肥化システムの実証試験	紀宝町	17	<ul style="list-style-type: none"> ・町内で生ごみ等を分別収集するモデル地区を設定。 ・実験処理施設を整備し、生ごみ堆肥化の実証試験事業を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業参画者の推移 平成18年3月末 84世帯、8事業者 平成21年7月 150世帯、9事業者 ・町全域でのシステム構築に向け、平成21年度に生ごみ堆肥化推進委員会を設置。平成22年9月に報告書を作成。
リサイクルパーク整備事業	鳥羽市	18	<ul style="list-style-type: none"> ・計画段階から市民の意見を取り入れた事業展開。 ・NPOが運営主体となる「リサイクルパーク」を整備。 ・パークに資源物の回収や環境教室等の拠点機能を付与。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクルを促進するために、持ち込んだ紙類の重さに応じ、ポイントを付与する制度(てんすうくんカード：地域の商店街での買い物時に利用)を導入。 ・22年度の利用者数は延べ21,646名、資源回収量は約250ト。資源化システムとして定着。
事業系ごみ減量化手法検討調査	鳥羽市	18	<ul style="list-style-type: none"> ・ホテル・旅館が多い地域事情に応じた事業系ごみ減量化手法を検討。 ・実効性を高めるために商工会議所と連携。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業系ごみの排出実態を明らかにすることで、今後の方向性を検討。 ・商工会議所内に「循環型社会システム作業部会」を設置し、意見をとりまとめ、19年3月、鳥羽商工会議所総会で報告。 ・20年度には、旅館・ホテル等の協力を得て、食品廃棄物の再資源化システムのモデル事業を実施。
事業系ごみ(食品廃棄物)再資源化システム検討事業	鳥羽市	20	<ul style="list-style-type: none"> ・平成18年度のモデル事業「事業系ごみの減量化手法検討調査」を踏まえ実施。 ・食品廃棄物の減量化・リサイクルループ構築のため、商工会議所等と連携してモデル事業所を選定し、事業系ごみの再資源化に向けたシステムの検討・実証を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者、地元商工会議所、行政が同じテーブルでシステムづくりの検討を進めることで、ごみ排出の現状や課題、資源化に向けた取組について意見交換を行うことで、共通認識のもと、施策を実施。 ・事業者が自ら生ごみを減量・減容・堆肥化し、完成堆肥を活用し、契約農家で米や野菜を栽培。出来上がった作物は、食材として利用するリサイクルループを構築。 ・参画2事業者から推計で年間最大約92トの生ごみが削減。 ・事業者における生ごみ処理を促進するため、生ごみ処理機の整備補助制度を創設。



いろいろな取組があるね♪

事業名	市町	年度	概要	効果(成果)
島内における資源循環モデル検討事業	鳥羽市	21	<ul style="list-style-type: none"> ・菅島、坂手島、神島にそれぞれ炭化式生ごみ処理機が設置されているが、施設のメンテナンス費用や処理後の残さの運搬費等が課題。 ・コストや温室効果ガスの削減をめざし、住民・自治会・行政等が連携して、生ごみのリサイクルループ(地域循環)の構築に向けた仕組みを検討。 ・平成22年3月に生ごみを堆肥化できる生ごみ処理機を設置し、できた堆肥を島内で使用する取組を開始。 	<ul style="list-style-type: none"> ・神島町においては、生ごみが約45 t 抑制され、収集運搬コストが軽減。 ・住民へのアンケート結果から生ごみ堆肥を島内で利用(家庭菜園や園芸)できることを確認。

基本取組6-2 障がい者や高齢者等のごみゼロ活動への参画促進

事業名	市町	年度	概要	効果(成果)
福祉・地域づくりと一体となったごみ収集システム等検討事業	名張市	21	<ul style="list-style-type: none"> ・効率的なごみ収集システムの構築をめざし、地域住民やNPO等と連携して、ごみの戸別収集方式からステーション方式への変更と高齢者支援について、検討・試行。 ・ごみ減量に向けた生ごみ・草木類の分別収集や資源化について検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「第3次ごみゼロ社会を目指すアクションプログラム」に基づき、高齢者等の安否確認を兼ねたごみ出し支援、また、戸別収集から拠点型ステーション方式へ変更。 ・桔梗が丘南地区では379戸、桔梗が丘8番町では330戸のごみを、ボランティアが各々1箇所のステーションに集約、それを行政が収集。 ・市内のごみ収集方式をステーション方式に統一。収集の効率性、経済性、安全性等が向上。

基本取組6-6 埋立ごみの資源としての有効利用の推進

事業名	市町	年度	概要	効果(成果)
埋立ごみ(ガラス・陶磁器くず等)の分別収集システム検討	伊勢市	19	<ul style="list-style-type: none"> ・ガラス・陶磁器類をリサイクル処理するルートの確保、新たな分別収集区分による回収によって、今まで埋立処分されていたガラス・陶磁器類を資源として有効活用し、埋立処分されるごみを削減。 ・地域住民が主体的・自立的に担うごみの回収に対して市が支援する集団回収ステーションの仕組みをモデル的に構築。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ガラス類(ガラス食器・板ガラス)・陶器類(茶碗・湯のみ)の分別回収・リサイクル処理により、最終埋立処分量が減少。 ・住民持込による集団回収と資源物の売却益を自治会の収入にする方式のステーションを2箇所整備し、設置拡大を進めるための課題等を把握。 ・自治会の運営による収集拠点数は、平成19年度には2ヶ所だったが、22年度末には32ヶ所に増加。



みんなの市
や町の取組は
あるかな♪

基本取組7-1 ごみ処理の有料化等経済的手法の活用

事業名	市町	年度	概要	効果(成果)
家庭系ごみ有料化制度の導入検討	伊賀市	17	・家庭系ごみの有料化により、ごみの減量化と分別の徹底を図るため、住民や事業者、行政で組織される「伊賀市ごみ減量・リサイクル等推進委員会」を設置し、有料化制度に関する協議・検討を実施。	・平成19年1月から家庭系ごみの有料化を実施。 ・家庭系可燃ごみの年間排出量を有料化前年と比較すると、5~10%減量効果が認められ、その後も効果は継続。

基本取組8-1 住民参画の行動計画づくり

事業名	市町	年度	概要	効果(成果)
市民参画によるごみ処理基本計画づくり	桑名市	17	・公募と有志の市民による「ごみ処理基本計画策定市民会議」を立ち上げ、市との協働で計画を策定。	・市民からごみ減量の5つの方法が提案され、それらを踏まえて「桑名市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」を平成18年3月に策定。
町民参画によるごみ処理基本計画づくり	東員町	18	・ごみ行政への実質的な住民参画を図るため、町民・NPO等からなる「東員町ごみゼロプラン策定町民会議」を立ち上げ、先進地視察、町民アンケート、ワークショップやフォーラム開催など、多様な参画の機会を確保しながら、ごみ処理基本計画を策定。	・町民と行政が協働して計画策定に取り組んだことにより、ごみ処理は行政だけで取り組めるものではなく、排出者である町民一人ひとりの取組が非常に大切であることが認識され、町民の意見を多く取り入れた実現可能な計画を策定。 ・基本計画が町民自らの行動計画として認識され、ごみ減量への意識が向上。

基本取組8-2 レジ袋削減・マイバッグ運動の展開

事業名	市町	年度	概要	効果(成果)
レジ袋削減(有料化の導入)検討	伊勢市	19	・レジ袋の削減をめざして、市民・事業者・市等で構成される「ええやんかマイバッグ！（レジ袋有料化）検討会」を設置。 ・レジ袋有料化も含めた議論を進め、事業者との自主協定の締結や市民への啓発活動等を実施。	・検討会の議論を通じて、各主体の意識が高まり、レジ袋の有料化に向けた共通認識が形成。 ・平成19年9月21日から市内全域の主要スーパー全店（7社21店舗）でレジ袋の有料化が一斉に開始。 ・平成23年10月18日現在、伊勢市内で10社31店舗に有料化が拡大。 ・平成22年度もマイバッグ持参率91.6%と高い実施率を維持。



事業名	市町	年度	概要	効果(成果)
レジ袋有料化検討事業	伊賀市 名張市	20	<ul style="list-style-type: none"> ・レジ袋の削減・マイバッグ持参を推進するため、伊賀市と名張市が互いに連携調整。 ・それぞれの地域で住民・事業者・行政等で構成する検討会を設置し、レジ袋有料化の同時スタートをめざすとともに、ドラッグストア・コンビニエンスストア・ホームセンター等にも参画を求め、より幅広い業種での取組を推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民団体や住民の参画により、地域で取組を支える協定方式体制がつけられ、告知キャンペーンを展開し、取組への理解が促進。 ・両市が密に連絡・調整し、市長合同会見を行うなど、別々の推進体制を取りつつ、伊賀地域一体で取り組む雰囲気づくり・PRに尽力。 ・平成23年8月1日現在、伊賀市9社17店、名張市9社14店でレジ袋の有料化を実施。 ・レジ袋辞退率も平成22年7月～23年6月で伊賀市88.7%、名張市92.2%と高率を維持。
レジ袋有料化検討事業	松阪市 多気町 明和町 大台町 玉城町 大紀町	20	<ul style="list-style-type: none"> ・レジ袋削減・マイバッグ推進をめざし、広域ブロックが一体となり住民・事業者・団体・行政等で構成する一元的な検討組織を設置し、レジ袋有料化や啓発活動等について検討するとともに、市町ごとに啓発活動を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1市5町が連携して取り組むため、住民・事業者・行政で構成する市町横断の一元的な検討組織を設置し、取組の方針や取組内容の検討を行ったことで、合意形成がスムーズかつ効率的。 ・平成20年11月11日から1市5町同時にドラッグストアも含めた13社67店舗でのレジ袋同時一斉有料化を開始。 ・平成23年8月1日現在、12社67店で有料化が実施され、22年9月時点のレジ袋辞退率は約90%と高率を維持。
複合的ごみ減量・リサイクル施策検討事業	四日市市	21	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民・NPO・事業者等と連携し、レジ袋の有料化や簡易包装の実施など、ごみ減量に積極的に取り組む「ごみ減量リサイクル推進店制度」を創設。 ・この制度に基づき、市と協定を締結した小売事業者を「ごみ減量推進店」として積極的にPRし、協定締結基準に掲げるごみ減量等の取組を推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会での議論を通じて、参加主体の意識が高まり、レジ袋有料化を含むごみ減量リサイクルの取組の推進に向けた共通認識が形成。 ・ごみ減量リサイクル推進店に関する協定を締結し、事業者のごみ減量・リサイクルの取組の促進、ごみ減量への意識啓発を実施。 ・生活圏が共通している朝日町、川越町との協働で制度設計に取り組み、同時に制度を運用。 ・スーパー等の14事業者50店舗（うちレジ袋有料化実施店舗は46店舗）8商店街と協定を締結し、平成22年4月1日から取組を開始。

基本取組8-3 ごみゼロに資するNPO、ボランティア等の活動推進

事業名	市町	年度	概要	効果(成果)
エコパートナー・ネットワーク推進事業	津市	19	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が自発的に環境やごみ減量化について考え、行動することをめざし、市民団体が運営主体となる活動センターをごみ焼却施設内に整備。 ・環境学習、活動・情報発信の拠点として、市民と行政が連携したエコ活動を行い、ごみゼロ社会をめざす人づくり・ネットワークづくりを推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ・焼却施設（津市西部クリーンセンター）内に市民エコ活動センターを設置し、ごみ処理を間近に体感できる情報発信・活動の拠点として活用。 ・平成22年度は、環境に関する講習会やフリーマーケットの開催、ごみ処理施設の見学会を実施するとともに、NPO等と連携し、小学校での環境出前授業を実施。

■平成22年度の取組（県として主に取り組んだこと）

■ごみゼロフォーラム～ごみゼロ社会をめざす「もったいない」を活かした地域づくり～

日 時：平成23年1月29日（土）13時15分～16時00分

場 所：県庁講堂

参加者：約230名

●趣旨

「ごみゼロ社会実現プラン」の改定にあたり、様々な視点からご意見をいただくパネルディスカッションや、ごみゼロについて自分の問題として考え、取り組んでいただくきっかけとなるよう、「もったいない」をテーマとした環境講談などを内容とする「ごみゼロフォーラム」を開催しました。

●内容

- ・環境講談「もったいない善兵衛」 講談師：神田紫 氏
- ・ごみゼロソング合唱（嬉野コールジョイ）
- ・パネルディスカッション
- ・ごみ減量・環境活動に関する取組の展示（16団体）

●参加者のアンケート意見

- ・NPO や企業、教育機関それぞれが一丸となって地域全体でごみをなくしていくことがいかに大切かと強く感じた。
- ・ごみ減量の目標が達成されている事を知りませんでした。ちょっとびっくりです。
- ・普段知る機会がないので、さまざまな取組が展示され、紹介されているので有益でした。



神田紫さんの環境講談



嬉野コールジョイの合唱



パネルディスカッション



環境取組の展示



県内各地から多くの人に参加してもらえたゼロ！
いろいろな取組の工夫があって、参考になったゼロ
またみんなに会いたいゼロ

地域ごみゼロ推進交流会

地域のごみ減量化取組の活性化をめざし、桑名、四日市、鈴鹿、津、松阪、伊勢、伊賀、尾鷲・熊野の県内 8 地域で各農林(水産)商工環境事務所環境室が主催し、住民やNPO団体等のみなさんと、地域での取組発表・先進事例の紹介・意見交換等の情報交流や見学会、講演会などを実施しました。

桑名 ごみゼロ交流会 in 丹生川っ子祭

11 回目となる今回は、「ごみゼロ交流会 in 丹生川っ子祭」として、環境と防災の視点を取り入れ、いなべ市立丹生川小学校で開催されました。

子どもたちは、ごみを出さないよう持参したマイ箸とマイ碗を使用し、豚汁を食べました。この豚汁は、地元の食生活改善推進協議会の方々が作られ、いなべ市で採れた食材を使用するなど地産地消にも取り組み、野菜の端材を使用するエコの観点も取り入れたものになっています。



マイ箸、マイ碗で食事

また、「乾パン(防災用非常食)に試食」、「リサイクルマーククイズ」、「環境紙芝居」、「防災・環境×クイズ」をとおり、楽しみながら環境と防災について考えました。

最後に子どもたちは、「わたしの環境宣言」と題して、当日学んだことを参考に、「落ちているごみを拾う」、「なるべくごみを出さないようにする」など、今日から取り組む環境にやさしい行動を挙げ、その実践を自分自身に約束しました。

- ・日時：平成 22 年 11 月 20 日(土)
- ・場所：いなべ市立丹生川小学校
- ・参加者：270 名(保護者含む)

四日市 ごみゼロウォーク・エコフェア in 四日市大学

子どもから大人まで、ごみ減量化など環境活動について楽しみながら学んでいただくことを目的に、四日市大学環境学習サークルの学生たちとの共催で、「ごみゼロウォーク・エコフェア in 四日市大学」を開催しました。

「環境体験・交流コーナー」では、環境活動団体 10 団体が出展し、リサイクルや水生生物に関する展示、竹を使った手作りおもちゃの体験などが行われました。

「ごみゼロウォーク」では、来場者・団体・スタッフ合わせて約 100 名が参加し、3 班にわかれて大学・小学校周辺の道路を清掃しました。清掃後、参加者には、地元大矢知産の流しそうめんを提供しました。大学周辺の間伐竹で作られた台を流れてくるそうめんを参加者の皆さんは、マイ箸・マイ碗を使って楽しく食べていました。

大学生、自治会、スポーツ少年団など地域の方々と協働で事業を実施したことにより、より深く環境意識の高まりを感じることができました。

- ・日時：平成 22 年 7 月 31 日(土)
- ・場所：四日市大学
- ・参加者：約 100 名



ごみゼロウォーク



環境 体験・交流コーナー

鈴鹿 地域ごみゼロ推進交流会「夏の鈴鹿川体験」



マイ箸づくり体験

NPO 法人市民ネットワークすずかのぶどうが事務局となり開催する「夏の鈴鹿川体験イベント」の実行委員会に参加し、イベント全体に「ごみゼロの視点」が活かされるよう、マイ箸やマイ椀、マイカップの持参、リユース食器の使用、不要物の有効利用、イベント全体のごみ減量などの取組を行いました。

また、「マイ箸づくり体験講座」のブースを出展し、尾鷲ひのきの間伐材を削ってマイ箸を作る講座に約 90 名の親子に参加いただきました。

マイ箸づくりの参加者は、自分や家族が使うことを想定して真剣に作業を行い、完成した箸を「今日から使いたい」と感想を話していました。

なお、イベントを通して、参加者へのごみ分別、ブースのごみを出展者に持ち帰るよう徹底したこと、飲食物についても、リユースカップやマイボトル、リユース食器を使用することで、環境に配慮したイベントとなりました。

- ・日時：平成 22 年 8 月 22 日（日）10 時～15 時
- ・場所：鈴鹿川河川緑地（鈴鹿市）
- ・参加者：約 1,000 名（イベント全体）

津 津地域ごみゼロ推進交流会～食からライフスタイルを考える～

食を通してライフスタイルを見直し、ごみゼロ社会を考える機会を提供することを目的に交流会を開催しました。

三重中京大学短期大学部土井喜美子教授から「ごみゼロからの食育 - しっかり食べる子ども - 」と題して

基調講演があり、「食品ロスを減らす必要性」、「食べる時のマナー」、「調理時に出るごみ」、「もったいない・食への感謝」などについて、お話しいただきました。

事例発表では、学校現場の取組事例として「成美小学校」、「豊が丘小学校」、「香良洲小学校」から、給食の残飯と調理くずから堆肥づくりに取り組む事例や海岸清掃の事例などが紹介されました。堆肥化事業者の事例では、「有限会社三功」、「(株)エコくるセンター」から地域と連携した堆肥化への取組が報告されました。

参加者全員の意見交換では、「夏場は水分の多い生ごみが多く乾燥も大変なため、燃えるごみに出したら、ごみの量がものすごく増えた。堆肥化はごみ減量に役立っているのがよくわかった。」など多くの意見が出されました。

- ・日時：平成 22 年 7 月 24 日（土）
- ・場所：津市西部クリーンセンター
- ・参加者：60 名



熱心に話を聞く参加者



土井喜美子教授の講演

松阪 チャレンジ！ごみゼロフェスタ 2010～松阪地域ごみゼロ推進交流会～

子どもやその家族、地域の方々が楽しみながら、ごみ減量化や環境への興味を持つ機会を提供するため、「チャレンジ！ごみゼロフェスタ 2010～松阪地域ごみゼロ推進交流会～」を開催しました。

「展示・体験コーナー」では、環境活動団体・子どもエコクラブ・市町等の活動紹介を展示、ごみゼロクイズ、ゼロ吉ぬりえ、ペットボトル工作、風呂敷活用展示などで楽しんでいただきました。



ごみゼロじいさんの講演

また、「ステージコーナー」では、「イオン明和チアーズクラブ」の活動発表、「嬉野アイリス」の「リフォームファッションショー」、「はるくま*おはなし」の「環境紙芝居」、日下部茂世氏による「みえゴミゼロじいさんのひとくふう」の講演など盛りだくさんの内容でした。

これら環境活動団体の取組の紹介、講演・紙芝居、リサイクル工作、環境クイズを通して環境学習を行うことで、ごみの減量化につながる“もったいない”精神について考えてもらうイベントとなりました。

- ・日時：平成 22 年 10 月 24 日（日）
- ・場所：三重県立みえこどもの城
- ・参加者：約 370 名（施設全体入場者数 1,086 名）



環境紙芝居の様子

伊勢 「できることから始めよう・美しい私たちの伊勢志摩のため」

（伊勢志摩地域ごみゼロ推進交流会・講演会）

地域みなさんにごみ問題の現状や先進的な取組事例を知っていただき、地域における 3R の推進に向けた取組につなげていくことを目的に、伊勢志摩地域で環境保全活動を行っている「きれいな伊勢志摩づくり連絡会議」と共催で開催しました。

午前中の交流会では、国立大学法人三重大学学長補佐朴恵淑氏（現在、理事・副学長）をアドバイザーに迎え、「鳥羽市相差町内会会長中村氏」、「志摩夢まちサポーターズ代表竹内氏」、「伊勢友の会滝川氏」、「主婦の玉山氏」、「NPO 法人植える美 i n g の相可高等学校生産経済科のみなさん」から身近な環境における活動を発表し情報交換を行いました。

午後からは、県から「県内のごみの現状」について報告した後、三重大学の朴氏による「世界一の環境先進大学」をめざす取組について、また、トヨタ自動車株式会社堤工場の寺田氏から「堤工場サステナブルプラント活動について」と題して、自然を活用し、自然と共存できる工場をめざした取組について講演していただきました。

約 80 名の方々に参加いただき、住民・NPO・行政間の対話を促進し、今後の活動に新しい展開をはかっていくきっかけとなりました。

- ・日時：平成 22 年 12 月 4 日（土）
- ・場所：ハートプラザみその多目的ホール
- ・参加者：午前 69 名・午後 82 名



交流会



講演会

伊賀 ~ごみと資源は紙ひとえ~伊賀地域ごみゼロ推進交流会 in 市民夏のにぎわいフェスタ 2010

伊賀市の夏の恒例行事「市民夏のにぎわいフェスタ」に「ごみと資源は紙ひとえ」をテーマとしたブースを出展し、幅広く市民の皆さんにごみゼロの取組をPRしました。

ブースでは、来場者に牛乳パックを使用してオリジナルはがきを作る「紙すき」や環境にやさしい生活を行っているかを判定する「もったいないチェック」を体験していただきました。また、伊賀市で7月から始まった容器包装プラスチックの分別収集について、わかりやすく理解していただくために、実際のプラスチックごみを使った「分別ゲーム」を行いました。

これらの体験を通して、分別すればごみが資源になることなど、環境にやさしい生活スタイルを考えていただく機会になりました。

- ・日時：平成22年8月22日(日)
- ・場所：伊賀市内中心市街地
- ・参加者：約150名



紙すき体験



ブース前のゼロ吉

尾鷲・熊野 ごみゼロ推進交流会 in 熊野・尾鷲

家庭や職場における自主的・自発的なごみ減量の取組を進めていただくことを目的に、尾鷲及び熊野地域合同による施設見学会と体験学習を行いました。

施設見学では、紀南清掃センターRDF(ごみ固形燃料)化施設の概要説明の後、施設内を見学し、普段出しているごみがどのように処理されているのかを学びました。



施設見学

その後、三重県環境学習情報センターの吉田晴子氏を講師に迎え、買い物ゲームを行いました。家庭から出るごみのうち、容器包装ごみが体積比で全体の約6割を占めるため、このゲームを通じて、買い物時にできるだけごみが出ない商品を買うことがごみの減量化につながることを学びました。

最後に、個人でごみの減量についてできることをグループにわかれて考え意見交換を行いました。

参加者一人ひとりが、「ごみゼロ」について考える機会となりました。

- ・日時：平成22年10月24日(日)
- ・場所：南牟婁清掃事業組合紀南清掃センター
- ・参加者：42名



買い物ゲーム

■とどけ！こども会議

こども局では、子どもが自らの力を発揮して健やかに育つことのできる地域社会づくりの取組の一環として、子どもたち自身の思いを発信したり、夢を実現したりする機会としてもらうため、「こども会議」を実施しています。

その取組のひとつとして、『ゼロ吉と学ぶ「ごみゼロ社会」～私たちにできること～』をテーマに、子どもたちに意見を出し合ってもらいました。

●「くまの」ちびっ子ボランティア

日 時：平成 22 年 10 月 16 日（土）

場 所：熊野市保健福祉センター会議室

参加人数：16 名



グループ討議



アイデアの数々

内 容： ごみゼロ DVD により、三重県のごみの現状を説明後、グループにわかれ、ごみを減らすためのアイデアや、ごみを減らすために大人にしてもらいたいことなどを話し合いました。

子どもたちからは、「三重県の全学校で『ごみを出すな』と先生に言ってもらう」、「小さくなった服や使わなくなった物は誰かにあげる」、「壊れたものは修理する」、「野菜の捨てる部分も捨てないで食べる」などたくさんのアイデアを発表してもらいました。



多くの皆さまにご協力いただき、ありがとうございました。

これからも「ごみゼロ社会」に向けた取組は続きます。お近くで開催の際は、ぜひともご参加ください。

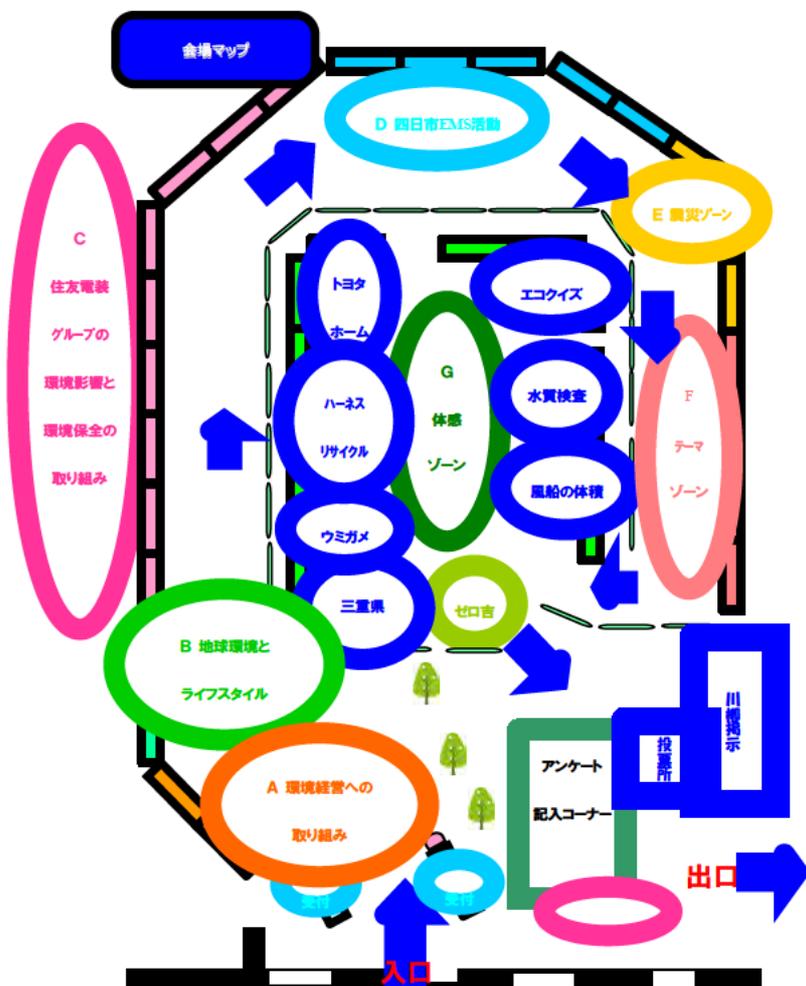
■ゼロ吉くんレポート

●2011住友電装グループ環境展「今こそ意識を変えるとき。見直そうライフスタイル」

平成23年11月15日～16日に住友電装株式会社で、「今こそ意識を変えるとき。見直そうライフスタイル」をテーマに「環境展」が開かれました。

「環境展」は、全従業員を対象にした環境教育の一環で開催しています。2日目は、従業員のみならず、地元自治会の皆さんなど地域の方にも開放しています。

その内容を僕が紹介するぞ♪



今回の環境展は、企業の「環境理念」から「具体的な取組」までわかりやすくパネルが並び、特に「震災ゾーン」では、自分たちにできることに焦点をあて、この夏の節電や省エネへの取組、「災害対応型乾電池」の展示など、多くの従業員の関心を集めていました。

また、「ごみ分別クイズ」、「水の汚れ度チェック」を楽しく体験でき、最後に従業員から応募のあった「エコ川柳」の秀逸作品への投票を行うなど盛りだくさんの内容となっています。



パネルに見入る従業員

安全環境部部長 森田亮一さん

毎年、全従業員 1,800 名を対象とした環境教育を目的に開催していますが、動線も考え、その時々話題性のあるものを展示するよう工夫しています。今年は、震災を大きなテーマとしています。去年は、COP10 の開催で、会場内に森をつくる、水槽を設置するなど、「絶滅危惧種」寸前の生物を展示しました。環境展は、従業員の環境意識の向上はもとより、日々の事業活動そのものが環境負荷の軽減につながっていることを再認識できる場と考えています。





ゼロ吉がお出迎え



水の汚れ度チェック



ごみ分別クイズ



安全環境部 井上愛子さん

従業員からは、体験するものが多いという意見が多く、何がいいか、マンネリ化を避け時間と費用を考えながら、アイデアについて試行錯誤します。今回、体験を通じて環境のことをもっと知ってもらおうと考えたのが、体感ゾーンです。ここまでくるには、なかなかまとまらなかったり、インパクト不足と言われてたり。ここが苦労しますね。部内での活発な協議を繰り返して、やっと出来上がります。

●国際しゃべり場&セミナー



国際しゃべり場&セミナー

平成22年7月15日鈴鹿国際大学で開催された、環境をテーマにした講演会とディスカッションに参加しました。講師に上智大学大学院地球環境学研究科在籍のグレッグレンチャー氏を迎え、「地球と私たちの生活」と題して講演があり、その後、ディスカッション「国際しゃべり場」が行われました。



参加者は、中国、ポリビア、韓国、ミャンマー等からの留学生を含む鈴鹿国際大学の学生、高校生、地域住民、行政、企業、農業従事者など、総勢80名の参加がありました。

国際しゃべり場では、「ごみをなくすためにできること」と題して、日常生活で取り組んでいることをいろいろな国の方と語り合いました。

● やすらぎくんネット

平成18年3月に設立された「やすらぎくんネット」は、鈴鹿市及び亀山市の地域に根ざした様々な団体が所属し、鈴鹿川流域の自然環境や歴史文化を守る各種活動を行っています。現在、会員数は30名。いろいろな職業の人が加入しています。事務局は、NPO 法人市民ネットワーク すずかのぶどうが担当しています。



現在は、主に鈴鹿川を主体とした「夏の鈴鹿川体験」そして「鈴鹿川流域の環境展」の2つのイベントを通じて川を大切に作る人づくり、自然環境を守る地域づくりにつなげる取組を実施しています。



夏の鈴鹿川体験



鈴鹿川流域の環境展



会長の森田幹男さん

イベントでは、川歩き体験やいかだ流しをはじめとする様々な参加体験や環境に関する展示・ワークショップ等、子どもから大人まで楽しめる内容になっています。

そして、ごみの減量化やリサイクルを意識した工夫が積極的に取り入れ、次世代につながる環境意識を育むことを大切にしています。

■ 三重県ごみゼロキャラクター「ゼロ吉」



僕は、三重の豊かな森から生まれた森の妖精。
人間で言うと小学4年生くらいかな。
僕が大人になった時も自然豊かな三重県であって欲しいから、
資源を大切に作る暮らしをしているよ。
人間がたくさん出すごみを食べたので、
今は、ちょっと太めな体だけど、大人になった頃には、
ダイエットしてスリムになるぞ〜。

■ゼロ吉着ぐるみ「エアゼロ吉」の活躍

平成 22 年度は、貸出も含めて年間 52 回のイベントに参加しました。県内北から南まで、時には県外のイベントにも参加し、たくさんの方々と交流を深めました。



県庁見学の様子



運動会で活躍するゼロ吉

■ゼロ吉着ぐるみ「エアゼロ吉」の貸出

ゼロ吉は、三重県の「ごみゼロ社会実現プラン」推進の啓発キャラクターとして平成 19 年 10 月に誕生しました。出来るだけ多くの県民の皆さんにゼロ吉に会っていただきたいため、エア式のゼロ吉の着ぐるみ（エアゼロ吉）を各種イベントに貸出しています。

以下のいずれかに該当する、原則県内開催のイベントに貸し出していますので、地域・企業のイベント等でご使用ください。

- ①ごみゼロ社会の推進や普及、啓発に寄与するもの
- ②地域の振興に寄与するもの
- ③文化、教育、芸術、スポーツ、観光、商業等の普及、振興に寄与するもの
- ④その他、公益の増進に寄与すると認められるもの

着脱、操作も簡単です。HPにある申込書に必要事項をご記入の上、お気軽にお申込みください。お待ちしております。

手続きは簡単！
たくさんの人に会
たいゼロ♪



みんなでめざそう “ごみゼロ社会”

風呂敷っていろいろ使えて便利だよ♪

マイバッグを持ってお買い物♪

お出かけにはマイボトル♪



ゼロ美 ゼロ助 ゼロママ ゼロパパ ゼロ吉

ごみゼロソング

作詞/藤島 幸

作曲/家城 和子

うた/山本 航大

コーラス/山本 宙

吉田千夏

プロデュース/エフエムよっかいち株式会社

① 捨てる前に かんがえる 3R (スリーアール) だね ゼロパパ【ゼロパパ】
レジぶくろは いりません マイバック自慢の ゼロママ【ゼロママ】
ごみは正しく わけましょう 分別できるよ ゼロ善くん【ゼロ善くん】
きっと明日は 変わるはず 青い空が よろこぶよ
ぼくも がんばろう みんなで めざそう わたしも がんばろう みんなで めざそう
ごみゼロ社会 (×4回)



② 水筒もって でかけるよ マイボトルの ゼロ筋くん【ゼロ筋くん】
ごはんは残さず 食べます すききらいないう ゼロ美ちゃん【ゼロ美ちゃん】
物は大事に 使います ゼロ善ファミリー
きっと明日は たのしいよ 森の木々が ささやくよ
ぼくも がんばろう わたしも がんばろう みんなで めざそう ごみゼロ社会
ぼくも がんばろう みんなで めざそう わたしも がんばろう みんなで めざそう
ごみゼロ社会 (×4回)

この「ごみゼロソング」は、「三重県ごみゼロホームページ」で聴けるゼロ♪

平成23年(2011年)度版

ごみゼロレポート

～みんなでめざそう“ごみゼロ社会”～

平成24年 月

三重県環境森林部ごみゼロ推進室

〒514-8570 三重県津市広明町13

TEL: 059-224-3126

FAX: 059-224-2530

Mail: gomizero@pref.mie.jp

三重県ごみゼロ

検索

三重県ごみゼロホームページ <http://www.eco.pref.mie.jp/gomizero>

- ・「エアゼロ吉」の貸出
- ・「ゼロ吉」ファミリーのキャラクターご使用
- ・ごみゼロメールマガジンの配信登録は、こちらからどうぞ!